

# 中海は宝物

## 未来守りネットワーク活動記

鳥取、島根両県にまたがる中海は、悠久の歴史の中で自然豊かな汽水水域として形成された。水質浄化や動植物保護、第1次産業の活性化に取り組むNPO法人「未来守(さきも)りネットワーク」の奥森隆夫理事長に、身近な宝の海の将来像を語ってもらう。

このたび、NPO法人未来守りネットワーク理事長の協力者とともに幅広い長、奥森隆夫が「中海は宝分野で活動しています。この物」と題して連載させていることを皆さんに少し認識いただくことになりました。していただき、書き進めたことをよろしくお願いたします。

初回から3回目までは、未来守りネットワークを設立するに至った経緯を説明します。

中海をはじめとした地域の「山々川々海」のつながり、自然環境の再生、環境教育や海藻リサイクル事業、うゆ屋の社長、2人目は

<1>

## 誕生物語 ①

奥森 隆夫

枕木山(松江市)から見た中海。地域の山、川、海が未来守りネットワークの活動のフィールドだ



おくもり・たかお 2004年4月の未来守りネットワーク設立時から理事長。塗装工事業「新和産業」専務取締役。飲食店「ココデス・キッチン」元「気亭」も経営する。境港市中町。55歳。

2003年9月ごろ、あの中海に戻すには水門撤去の会合で酒を飲みながら気や堤防を全面開削し、くぼ分だけは若手企業家(当時全員40代)という4人が、の意見が出ました。

いつもは雑談をして終わるところが「中海干拓が中止になった。今後の中海再生事業のことを考えたことがあるか」と、真剣な討論になりました。

時間がたつのを忘れるほど白熱したのを覚えています。その中で特に印象に残ったやりとりを少し紹介します。

海事事務所の社長、3人目して4人目が私で、塗装会社は水産関係会社の社長、その社の専務をしています。今、中海は一部のエリアを除いて「死の海」で元

## 干拓中止で再生策議論

の佐陀川を改修して海水を取り入れるなど、専門家が誰一人いない中、科学的根拠のない話で盛り上がりま